

鳥取大学医学部保健学科広報 アレスコ

ALESCO

No.20

March 2022

アレスコ【ALESCO】とは古代ラテン語で

「成長する、発展する」という意味です。

INDEX

02…新入生たちの日々

03…医学部長挨拶

04…保健学科長挨拶

05…卒業生だより

●保健師として活躍する卒業生

●臨床検査技師として活躍する卒業生

06…看護学専攻 各講座のトピックス

08…検査技術科学専攻 各講座のトピックス

09…教育活動 大学院生の研究紹介

10…学術・研究活動

●てんかんに関わる社会精神医学

●複雑な生命現象は、基礎研究が大事です

11…地域貢献活動

●新型コロナウイルスワクチンの職域接種

●新型コロナウイルス流行にあたって

12…新任・退職教員からのメッセージ

13…令和3年度卒業研究演題一覧

14…令和4年度学年暦・学級委員

15…令和2年度後援会事業報告・令和3年度後援会役員名簿

16…令和3年度後援会事業計画・編集後記



新入生たちの日々 ～がんばってます～

★検査1年生授業風景



★検査1年生記念撮影



★検査1年生授業風景



★看護1年生授業風景



★看護1年生記念撮影



★看護1年生授業風景



★看護1年生授業風景



医学部長挨拶

創立75周年を迎えた鳥取大学医学部と保健学科の発展を祈念して

医学部長 中村 廣繁



鳥取大学医学部保健学科の関係各位におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。新型コロナウイルス感染症は世の中を一変させ、想像以上に長い闘いが続いておりますが、さまざまな困難に立ち向かっておられる皆さまに、心より敬意と感謝を申し上げます。

鳥取大学医学部は2020年に創立75周年を迎えましたが、長い歴史を積み重ねて、山陰の医学教育・研究・診療、そして人材育成の中核としての社会的使命を果たしてきました。一方、保健学科は、1999年10月に鳥取大学医療技術短期大学部（1975年4月設立）を改組、設置され、これまでに1471名の看護師、730名の臨床検査技師を輩出しており、卒業生は山陰のみならず、全国各地で医療、福祉、保健の分野で活躍しています。この20年余の歩みの中で目覚ましい発展を遂げ、医学部の中で確固たる立場を築かれた保健学科の教職員、後援会の皆さまに、医学部を代表して厚く御礼申し上げます。

さて、国立大学は2004年度の法人化以降、運営費交付金が年々減額される中で、医学部はプレゼンスを上げ、地域への貢献力を高める必要があります。ミッションの再定義により、保健学科は、「地域の健康課題に対応した、高いコミュニケーション能力と臨床実践力を備えた全人的医療人である専門職業人の養成」を謳っており、この使命を果たすために、近年さまざまな改革が行われました。2020年には大学院の改組により、大学院保健学専攻は生命科学専攻、機能再生医科学専攻と統合して医科学専攻となりました。この背景として、近年の医療環境の変化により、医療・看護・検査・創薬等開発者の連携が必要となる中で、従来の分野の枠組みを超えて、医学、生命科学、保健学の全ての知識を横断的に習得する狙いがあります。このように医学部の発展のためには、医学科、生命科学科、保健学科がこれまで行ってきた特徴的な教育、先進的な研究を融合して、教育力や研究力をさらに高めていくことが重要です。

今後、保健学科は30周年、医学部は100周年に向けて、将来ビジョンを描いて前進することになります。コロナ禍を逆にチャンスに変え、現在推進しているデジタル・キャンパス構想やクリーン・グリーン活動を通して、医学部のさらなる発展を目指してまいりましょう。皆さまのご指導、ご鞭撻を何卒よろしくお願い申し上げます。



保健学科長挨拶

“変化”に向き合う学生に心を寄せて

保健学科長 深田 美香



平成12年4月に第1期入学生を迎えた保健学科は、この春には、第20期卒業生を送り出します。新型コロナウイルスの流行で延期しておりました医学部創立76周年記念事業に合わせて、保健学科設置20周年記念を迎えることができました。多くの学部学生、大学院生が学び舎を旅立ち、保健、医療、福祉、教育の場で広く活躍しています。このように保健学科がその使命を果たし社会に貢献できましたのも、卒業生の皆様、そして、保護者、後援会、同窓会の皆様のご支援、ご協力のおかげであり、心から感謝申し上げます。

令和3年度も、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、学生と教職員の健康を守ることを第一に、適切な感染症対策を講じた上で、可能な限り対面授業を行いました。学生の皆さんには様々な生活上の制約を守って頂き、多大な協力をしてくださっていることに心より感謝しております。病院や施設に出向いての実習が行えない時期にはリモート実習として、実習先と学生がオンラインでつながることができる環境を整えました。また、感染拡大防止のため自宅から授業に参加する学生がいる場合には、対面授業と遠隔授業を同時にハイブリッド方式で行うなど工夫しています。課題活動については、活動時間や方法についての指針を提示しながら取り組んでいただいておりますが、感染流行地で行われる大会への参加ができないなど、大学生活への影響は少なくありません。そのような中でも、フェイスシールド越しに見せてくれる学生の笑顔や距離を取りながら楽しそうに話している学生の姿は頼もしくも感じられます。この変化の時代を生き、困難に向き合う学生たちが、新しい社会の創造に力を発揮されることを期待しています。

令和4年度から看護学専攻、検査技術科学専攻共に、人間理解や倫理的能力の獲得、課題解決能力、科学的探究能力の獲得を目指した新しいカリキュラムによる教育を開始します。目標とする学修成果を達成できるように、対話型、参加型教育を展開して能動的な学習を推進し、学修成果の可視化に努め、これを検証し、教育課程の編成に反映してまいります。

保健学科が今後も学生、卒業生、市民の方をはじめとするすべての関係者の皆さまに愛され、夢のある魅力あふれる大学であり続けるために構成員一同、より一層の努力を重ねてまいります。引き続き、皆さまのあたたかなご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



卒業生だより

保健師として活躍する卒業生

城市 祐理 さん 看護学専攻 第17期生

私は現在、鳥取市保健所 健康・子育て推進課で保健師をしています。鳥取市の保健活動は、地区担当と業務担当の併用になっており、業務は母子保健を担当しています。担当地区では、子育てサークルや高齢者サロンなどで幅広い年代の方と関わり、子育てや健康づくりの集団教育、家庭訪問などの地区活動を行います。母子保健業務では、乳幼児健診の計画・従事や地域の方々と一緒に子育てサークルの活動支援を行っています。また、保健所業務として新型コロナウイルス感染症の業務にも従事しています。業務も幅広く、大変さを感じる時もありますが、地域住民の方が元気に安心して暮らせるよう、保健師として活動していくことにやりがいを感じています。地域住民の方や関係機関の方々との関わりを大切に、同じ目線で考えていけるよう、これからも頑張ります。

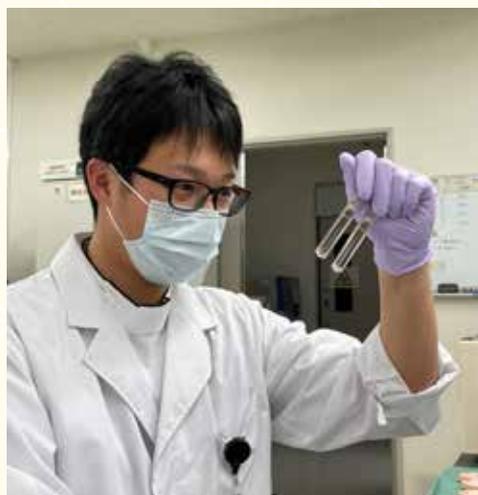


卒業生だより

臨床検査技師として活躍する卒業生

池口 拓哉 さん 検査技術科学専攻 第16期生

皆さんこんにちは。私は今年の春から臨床検査技師として鳥取大学医学部附属病院で働いています。臨床検査技師は血液や尿などの検体を取り扱う検体検査や心電図や超音波検査などの生理機能検査を主に行っています。私は現在輸血・遺伝子検査部門で輸血剤の管理や血液型検査、また新型コロナウイルス感染症のPCR検査などに携わっています。どちらも命を守る、感染を食い止めるといった点で責任は大きいですがとてもやりがいのある仕事です。業務を行う中で、学生の頃に講義や臨床実習で学んだ事が活かされていると日々実感しています。



看護学専攻紹介 各講座のトピックス

基礎看護学講座

◆ Zoomでのインタビューによる統合実習 安藤 泰至

安藤ゼミではここ数年、「死」をめぐる卒業研究が多く、現場の医療者の声を聞く統合実習では、鳥取市立病院で緩和ケアに携わる看護師さんたちにご協力いただいてインタビューを行ってきました。ところがコロナウイルス感染拡大によって病院でのインタビューが困難になったため、今年はZoomを使ったオンラインインタビューに切り替えました。二人の学生の研究テーマが「在宅看取り」と「終末期患者の意思決定」であったため、安藤と親交のある医師二人、看護師一人、僧侶一人、ケアマネージャー一人にご協力をお願いし、それぞれのテーマに合った方にインタビューを行いました。普段接することのないいろんな職種の方々の率直なお話を伺えて、学生たちも目を輝かせていました。



成人・老人看護学講座

◆ 知識を実践に活かす演習 吉村 純子

「成人看護学演習」「老年看護学演習」等多くの「演習」の授業があります。今までの学習の知識を、学生同士または教員相手に実践する授業です。「老年看護学演習」では、高齢者の心身の緊張を解きほぐし、不安やストレスを緩和する目的でハンドマッサージを高齢者(対象者)役、看護師役と立場を変え行います。演習では患者の手・爪先の観察、力の入れ方の技術面だけではなく、役になりきり対象者・看護師役の体験を通し気持ち・思いを思考し、「失敗した点」「良かった点」を共有することで知識を活用できるスキルとして学んでいきます。今後の臨地実習や医療者としての実践の中で演習が活かせることを期待しています。



母性・小児家族看護学講座

◆子どもと家族の健やかな生活を考える実習

金山 俊介

小児家族看護学実習では、保育施設や病院、地域で子どもと家族の生活を支える様々な施設において実習を行います。保育施設では子どもとの関わりを通して、それぞれの成長や発達に応じた支援を学びます。はじめは、子どもとの関わりがぎこちなかった学生も、遊びを通じて次第に、その子なりの成長や関わり方に気づいていきます。病院では疾患のある子どもと家族の生活の支援を考え実践します。その中で、多様な家族のかたち、価値観に接し、それぞれの子どもと家族が健やかに生活していくための看護を考え実践します。地域の施設では、子どもや家族がその人らしく生活することを支える多職種や多機関の連携や協働について学びを深めます。



地域・精神看護学講座

◆地域の健康を守る「保健師」を学ぶ ～公衆衛生看護学実習～

徳嶋 靖子

「保健師さん」といえば、新型コロナで一躍脚光を浴びましたが、以前から予防活動に勤しむ看護職です。日頃は目立たず、「何をする人?」と思われがちだからこそ、実習を通した学びは大きいです。現場の活動のみでなく、指導者とのディスカッションも専門職マインドや多職種連携の実際を学ぶ絶好の機会です。そして、住民の方々とともに健康を推進していく醍醐味や、健康課題からその地域に合った取り組みにつなげること等、公衆衛生看護ならではの魅力に触れ、「保健師良いかも」と、将来の選択肢が広がる学生さんも多数です。また、実習中に立案する計画にもZ世代的なアイデアが増えてきました。時代の変化を感じつつ、刺激に耐えない毎日です。



実習先でのカンファレンス(境港市)



健康教育の様子(日野町)



時には、オンラインで保健師さんにインタビュー(倉吉保健所)

検査技術科学専攻紹介 各講座のトピックス

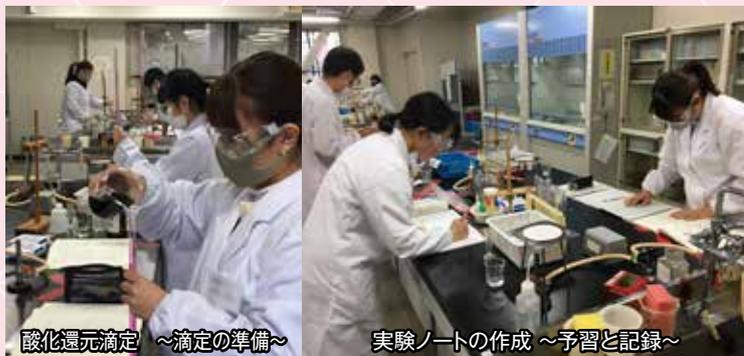
生体制御学講座

◆化学実験演習 ～定性分析・定量分析～

高村 歩美

入学後、最初の1年間を過ごす鳥取キャンパスでは、自然科学の基礎知識や、基本的な実験操作を学びます。化学分析は、定性分析と定量分析に大別され、これらは疾患を鑑別する臨床検査の基本です。私が担当する「化学実験演習」では、濾過法による物質の単離や、滴定および吸光光度法による成分の濃度測定を行います。一人で進める実験なので、毎回の予習は欠かせません。そして実験中は、記録を取りながら進めることも大切です。詳細に記載した実験ノートは、レポート・論文を作成するときや、再現性を確認するとき、欠かすことのできない資料です。また、実験がうまくいかなかった際、いろいろな視点から考察するときにとても役立ちます。

この実習を通じて、臨床検査技師や研究者としての第一歩を踏み出した実感を得ることができるように取り組んでいます。



病態検査学講座

◆病態生理情報検査学実習Ⅰの紹介

佐藤 研吾

3年前期では講義形式で様々な臨床生理検査の知識を習得し、3年後期に各検査の実技実習を実施しています。臨床生理分野は、心電図、呼吸機能検査、脳波検査、超音波検査など臨床検査技師として患者と接する機会の多い検査部門であることより、実習ではペアになった学生同士で、検査役と患者役になってもらいます。どのような検査なのかを実体験する事で、患者へ説明するコミュニケーション能力を身につけさせる目的です。また、4年の臨床実習に向けて本学独自の客観的臨床能力試験（OSCE）を実施し、学生の能力到達度を評価しています。



教育活動

大学院生の研究紹介

難しく楽しい充実した研究活動

医科学専攻博士後期課程(看護学)2年
西本亜希子

大学院に入学して4年、途中、第3子の出産を経験し、仕事と学業、家庭での役割の並行は大変なこともあります。指導教員や家族の支えもあり、休学することなく学業を続けています。研究のテーマは、「臨床看護師のリフレクション能力」です。リフレクションによって多くの学びを得た私自身の経験から、看護師の成長にはリフレクション能力の向上が必要であると考えようになったことが研究のきっかけです。現在は、看護師のリフレクション能力の影響要因と必要な支援を見出すための研究を行っています。研究の成果が、看護師の成長支援の一助となれるよう、大学院で学んだことを活かし、今後も研究を続けていきたいと考えています。



大学院で得た学び

医科学専攻博士前期課程(医用検査学)1年
田中 暢人

私たちの研究室では認知症の早期診断のための検査法や予防に関する研究を行っています。その中でも私は「地域で実施できる高齢者向け検診の在り方」について研究を行っています。担当教授と研究室の先生のご指導や、同じ研究室に所属する大学院生の助言のもと、日々試行錯誤しながら充実した研究活動を行うことができています。

研究活動の中で地域の高齢者の方々と実際にふれあうことで得た学びは、机に向かって得られる知識よりもずっと貴重なものであると感じています。この学びを忘れず大切に、今後も研究活動に取り組んでいきたいと思えます。

大学院修了後は培った知識と学びを臨床現場や研究で活かしていきたいと考えています。



地域検診に協力してくれた課題研究生との集合写真

山陰認知症ケア研究会で研究発表している著者

学術・研究活動

てんかんに関わる社会精神医学

地域・精神看護学講座 吉岡 伸一

保健学科に異動してからこれまで、てんかんについての知識や意識、態度、実践や実態など、主としてアンケート調査票を用いて社会精神医学的研究を行ってきました。調査対象や地域は、一般企業者、医師会会員、看護大学生、看護職、福祉職、訪問看護及び訪問介護サービス提供者、大学教員、小・中・高校教諭・教員や高齢者福祉施設、障害者施設、大学の保健管理施設など、様々です。研究結果を踏まえ、国内外の学会活動やてんかんの啓発活動として出前講座、また、てんかん協会の活動を行ってきました。

研究で得られた知見を活かし、てんかんのある人が安心して社会参加を含め、暮らせるように、社会に還元していきたいと思っています。



複雑な生命現象は、基礎研究が大事です

生体制御学講座 森 徹自

皮膚や肝臓などは少し傷がついても修復され、機能も回復します。一方、脳梗塞や外傷などで脳が傷ついて神経細胞が死ぬと、機能回復は非常に困難です。それは、基本的に大人の脳では新しい神経細胞は新たに産生されないためです。しかし、ヒトを含む大人の哺乳類の脳の限られた部位にも神経幹細胞と呼ばれる未熟な細胞が存在し、正常な状態でも新しい神経細胞が産生されることが示されています。大人の神経細胞は、胎生期に多数存在する神経幹細胞の一部が生き残ったものと考えられていますが、なぜ一部の部位に大人になっても神経幹細胞が存在するのか、分かっていません。また、習慣的に体を動かしたり、新しいことにチャレンジしたりすると、新しい神経細胞が増えやすいこともわかっていますが、なぜなのか未だに不明です。このような問題が分かれば、脳を修復、再生することに繋がると考え、研究を行っています。



地域貢献活動

新型コロナウイルスワクチンの職域接種

母性小児家族看護学講座 金山 俊介

2021年8月、9月に鳥取大学医学部附属病院において、新型コロナウイルスワクチンの職域接種が行われました。附属病院の医師や看護師、事務職員とともに、保健学科の教員も職域接種に参加しました。医師免許を有する教員は、ワクチン接種者の問診や診察を行い、看護師免許を有する教員は、ワクチン接種の実施者として、本学の学生及び附属病院の職員に対してワクチン接種を行いました。

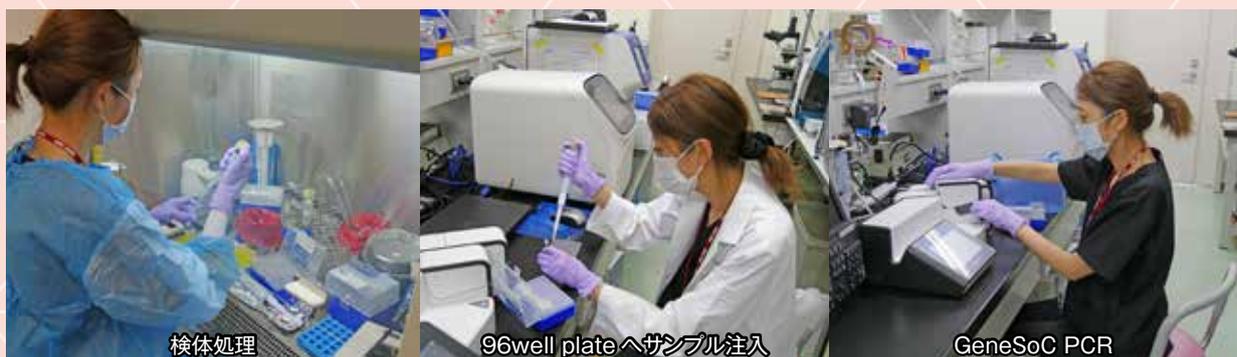
医療に関わる職業人として、今後も新型コロナウイルス感染症の終息に向けた活動に貢献していきます。



新型コロナウイルス流行にあたって

病態検査学講座 高田美也子

2020年より、新型コロナウイルスの流行により、リアルタイムPCRという言葉をよく耳にされたと思います。我々はAMED事業に参加しGeneSoCという15分程度で結果が判明する機器も導入し、検査の開発や実施を行っています。勿論従来型の装置で行うこともありますが、この手法による検査できる人数が不足しているという報道もありました。実践できる人材の育成と感染性のサンプルを扱う際の手技手法の習得が非常に大切と感じました。PCR法は、新型コロナウイルスと戦うための、重要な武器となっています。この機会に是非検査について興味をもてただけなら幸いです。



新任・退職職員からのメッセージ

退任のご挨拶

生体制御学講座 浦上 克哉

平成13年4月に鳥取大学医学部脳神経内科から医学部保健学科生体制御学講座に異動し、教育、研究、臨床に20年間努めてまいりました。

学部教育については公衆衛生学を、大学院教育については認知症を中心に行ってまいりました。認知症の患者数が増加する中、臨床検査技師が認知症医療に関与することが極めて少ないことに気づきました。そこで、認知症を正しく理解し、認知症の診断と治療に必要な検査を適切に行える臨床検査技師教育を目指してきました。また、認知症医療に対応できる臨床検査技師として「認定認知症領域検査技師」の資格制度を日本臨床衛生検査技師会と協同して立ち上げることができました。本学の大学院にも「認定認知症領域検査技師コース」を作ることができ、既に修了生を多く輩出しております。

認知症がしっかりと学べる検査技術学専攻として教育が継続されることを期待しております。長年お世話になった皆様に感謝申し上げます。



新任教員紹介

母性・小児家族看護学講座 服部 多恵

令和3年5月より鳥取大学医学部保健学科母性・小児家族看護学講座に着任いたしました服部多恵と申します。現在は助産実習・母性家族看護実習などに携わらせていただいております。私は本学の卒業生です。本学在学中の助産実習でたくさんの学び・経験ができ、ご縁あって実習でお世話になった施設に就職をしました。実習をするためには、実習施設のスタッフはもちろん、教員との関わりも重要だと思います。私は教育経験がありませんが、学生の時にたくさん教員の先生方にお世話になったので、今後は教員として学生指導に携わり、助産や母性看護の楽しさを伝えていきたいと思っております。まだまだ未熟ですが、これから学生と共に考え、学びを深め、成長していきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。



令和3年度 卒業研究演題一覧

基礎看護学講座

1. 新人レベル看護師の臨床におけるリフレクションの様相ーリフレクション学習経験がある3年目看護師のインタビューからー
2. 実習中のマスク着用によるコミュニケーションへの影響ー看護学生を対象にしたアンケート調査ー
3. COVID-19による外国人留学生の生活への影響とストレス反応
4. スポーツ外傷・障害を経験した選手の受傷から復帰までにおける心理的特徴と医療者の関わりについてー文献検討とKH Coderによる分析よりー
5. 急性期病院の院内転倒に影響する要因の検討
6. 一般市民の出生前診断に関する認識と医療者の対応についての文献検討ー出生前診断経験者、妊娠未経験者、男性、身近に障害者や遺伝性疾患患者がいる人の意識調査よりー
7. 終末期における意思決定支援ー現状の課題とその対策ー
8. 在宅看取りの現状と課題ー個別性を尊重する看取りを求めてー
9. 退院支援における多職種連携での各職種の困難

成人・老人看護学講座

1. 日本における高齢者の COVID-19 に関する研究動向ー KH Coder による Text Mining ー
2. 2 型糖尿病患者の食事療法に対する家族支援の実態と課題
3. 看護師による糖尿病患者教育への困難感に関する文献検討ー開示者の自己理解への過程ー
4. がん患者の意思決定を支える看護師の困難感および看護介入に関する文献検討
5. わが国の終末期がん患者の前向きな心理に関する文献検討
6. 手術を受ける患者の抱く思いに関する文献検討
7. クリティカル領域における身体抑制の現状と看護

母性・小児家族看護学講座

1. 対面と非対面コミュニケーションにおける話し手・聞き手への心理的影響の差異についてー介入研究のための予備的検討ー
2. 長期入院した小児の復学に関わる問題点とその支援についての文献検討
3. 小児の入院に母親が付き添うことによる同胞への影響に関する文献検討
4. 患児の入院に付き添うことが母親に与える影響に関する文献検討
5. NICU に入院している児の父親の体験に関する文献検討
6. 緊急帝王切開術を経験した産婦・褥婦のストレスナーについての文献検討
7. 助産師の授乳支援のあり方ー母親の授乳困難感の要因に関する文献検討ー

地域・精神看護学講座

1. 認知症高齢者の家族介護者が抱える介護負担に関する文献検討
2. アドバンス・ケア・プランニングと Shared Decision Making に関する文献検討ー概念の整理と今後の実践への展望ー
3. 知的障害を持つ児の親の障害受容過程に関する文献検討
4. 発達障害のある生徒と関わる養護教諭の役割と対応に関する文献検討
5. 成人の保健指導におけるより効果的な行動変容に繋がる保健師の視点に関する文献検討
6. 母子保健分野の児童虐待予防における保健師の役割・連携についての文献研究

生体制御学講座

1. 地域で実践できる高齢者向け検診の在り方に関する検討
2. ヘモグロビンの立体構造とヒスチジンのプロトン化状態の関係
3. ニーマンピック病 C 型の病態生理
4. 生体内における細胞の生と死

病態検査学講座

1. 汎発生腹膜炎で死亡した横行結腸癌・多発肝転移の剖検例の研究
2. 血液培養陽性の緑膿菌および大腸菌に対する抗菌薬の効果検討
3. 睡眠の質と体位（セミファーラー、仰臥位寝）について
4. リポ蛋白質の新しい分析法の開発や臨床的意義の検討
5. PCR 法を用いた遺伝子多型解析

令和4年度 学年暦・学級委員

鳥取キャンパス 学年暦(1年次のみ)

事項	月 日
学年開始(前期開始)	4月 1日(金)
春季休業日	4月 1日(金)～4月 8日(金)
全学共通科目説明会	4月 1日(金)
入学式・全学新生オリエンテーション	4月 6日(水)
各学部オリエンテーション	4月 7日(木)
前期・第1クォーター授業開始	4月11日(月)
水曜日の振替授業	5月30日(月)
鳥取大学記念日	6月 1日(水)
前期(第1クォーター)予備日	6月 4日(土), 6月13日(月)
前期(第2クォーター)授業開始	6月14日(火)
月曜日の振替授業	7月19日(火)
前期(第2クォーター)予備日	7月30日(土), 8月10日(水)
夏季休業日	8月11日(木)～9月30日(金)
前期終了	9月30日(金)
後期開始	10月 1日(土)

事項	月 日
後期・第3クォーター授業開始	10月 3日(月)
木曜日の振替授業	11月 1日(火)
後期(第3クォーター)予備日	11月12日(土), 12月 1日(木)
後期(第4クォーター)授業開始	12月 2日(金)
冬季休業日	12月27日(火)～ 1月 4日(水)
大学入学共通テスト試験準備による休講	1月13日(金)
後期(第4クォーター)予備日	1月28日(土), 2月10日(金)
推薦入試による休講	2月 3日(金)
金曜日の振替授業	2月 9日(木)
卒業式	3月18日(土)
春季休業日	2月11日(土)～ 3月31日(金)
学年終了(後期終了)	3月31日(金)

※休業日においても授業等を実施することがあります。

米子キャンパス 学年暦(2年次以降)

事項	月 日
学年開始(前期開始)	4月 1日(金)
進級生オリエンテーション	3月31日(木)
前期授業開始	4月 1日(金)
鳥取大学記念日	6月 1日(水)
前期授業及び試験終了	8月19日(金)
夏季休業日	8月20日(土)～9月30日(金) ※看護学専攻2年次は9月3日(土)～9月30日(金) ※看護学専攻3年次は8月20日(土)～9月4日(日)
前期終了	9月30日(金)

※都合により変更する場合があります。

事項	月 日
後期開始	10月 1日(土)
後期授業開始	10月 3日(月)
冬季休業日	12月29日(木)～1月3日(火) ※看護学専攻3年次は12月28日(水)～1月3日(火)
後期授業及び試験終了	2月24日(金) ※看護学専攻3年次は3月3日(金)
卒業式	3月 2日(木)(予定)
春季休業日	2月25日(土)～3月31日(金) ※看護学専攻3年次は3月4日(土)～3月31日(金)
学年終了(後期終了)	3月31日(金)

看護学専攻 学級委員

入学年度	学年	氏 名	所属講座
令和4年度	1年生	中條 雅美 教授 / 長谷川 慶幸 助教	成人・老人看護学
令和3年度	2年生	深田 美香 教授 / 藤原 由記子 講師	基礎看護学
令和2年度	3年生	金田 由紀子 准教授 / 雑賀 倫子 講師	地域・精神看護学
令和元年度	4年生	鈴木 康江 教授 / 佐々木 くみ子 教授	母性・小児家族看護学

検査技術科学専攻 学級委員

入学年度	学年	氏 名	所属講座
令和4年度	1年生	臼井 真一 教授 / 松下 倫子 助教	病態検査学
令和3年度	2年生	二宮 治明 教授 / 仲宗根 眞恵 助教	生体制御学
令和2年度	3年生	加藤 雅彦 教授 / 石黒 尚子 助教	病態検査学
令和元年度	4年生	網崎 孝志 教授 / 藤原 伸一 准教授	生体制御学

●両専攻とも1年生については、上記保健学科教員以外に、湖山キャンパスの教員数名が学級委員として学生の指導・相談の任にあたっています。

令和2年度 医学部保健学科後援会事業報告

1. 教育助成

入学式関連

- 入学式
- 新入生オリエンテーション

大学説明会関連

- オープンキャンパス(Web開催)

教育関連

- 優秀学生表彰
- 看護学専攻・検査技術科学専攻へ助成

2. 国家試験対策

- 看護師等国家試験対策模試
- 臨床検査技師国家試験対策模試

3. 就職対策

- 教員による病院等の就職先への訪問

4. 医学部国際交流助成

- 国際交流協定校との交流(コロナのため延期)

5. 文化行事援助

- 錦祭

6. 後援会運営

- 保健学科広報「アレスコ」発行

令和3年度 鳥取大学医学部後援会役員名簿

役職名	氏名	役職指定	学年(年次)
会長	森 輝美		医学4年
副会長	中村 廣繁	医学部長	
副会長	石賀 充		生命3年
副会長	南川 英貴		看護4年
理事	小椋 崇喜		医学1年
理事	十河 卓史		医学1年
理事	海藤 俊行	医学科長	
理事	島村 文枝		生命1年
理事	畠 義郎	生命科学科長	
理事	足立 智彦		看護4年
理事	澤本 太		検査3年
理事	深田 美香	保健学科長	
監事	長尾 勝人		医学3年
監事	加藤 裕子		生命1年
監事	澤口 早苗		看護4年
会計	足立 学	学務課長	

令和3年度 後援会事業計画(案)

1. 教育助成

入学式関連

- 入学式
- 新入生オリエンテーション
- 大学入門ゼミ(開催せず、支出なし)

大学説明会関連

- オープンキャンパス

教育関連

- 新入生ふれあい朝食会(開催せず、支出なし)
- 2年次学生と教員との懇談会
- 優秀学生表彰
- 看護学専攻・検査技術科学専攻へ助成

2. 国家試験対策

- 看護師等国家試験対策模試
- 臨床検査技師国家試験対策模試

3. 就職対策

- 教員による病院等の就職先への訪問

4. 医学部国際交流助成

- 国際交流協定校との交流

5. 文化行事援助

- 錦祭(6月現在開催未定だが予算計上)

6. 後援会運営

- 保健学科広報「アレスコ」発行
- 後援会役員会(開催しない予定、支出なし)

編集後記

鳥取大学医学部保健学科広報アレスコ(ALESCO)第20号を発刊いたしました。

昨年度に続き、新型コロナウイルスの流行により、多くの講義や実習をオンラインで行わなければならなくなっただけでなく、学生にとってはさまざまな意味で貴重な各種の行事も中止せざるを得なくなった一年でした。

感染状況の今後についてはまだ見通しも立ちませんが、この間の学生や教職員のさまざまな努力や工夫、それによって培われた機動力や柔軟性は、コロナ収束後もきっと今後の大学生活のなかで生きてくるのではないかと思います。

ささやかではございますが、保護者および関係各位の皆様には、アレスコの記事を通じて、保健学科の「成長・発展(アレスコ)」の姿、ご子息、ご息女の学生生活の一端を感じ取っていただければ幸いに存じます。

保健学科広報委員 安藤 泰至

[発行責任者] 鳥取大学医学部保健学科後援会・鳥取大学医学部保健学科広報委員会

[発行所] 鳥取大学医学部保健学科(〒683-8503 鳥取県米子市西町86番地)

[発行年月] 令和4年2月